

GBP/JPY(6/11) 2001年以降、5年にわたりポンド堅調



コメント

先週の値動き＝もみあい。週半ばにかけてやや堅調も、週末にかけ下落。

今週の指標＝PPI、CPIなどインフレ指標が発表。

テクニカル＝高いスワップ金利とボラティリティーの高さで人気のポンドは、2001年以降、約5年にわたり、堅調な動きが続いている。基本的に**24ヶ月移動平均線**に沿い、上昇基調が続く。

ファンダメンタルズ＝対ドルや対ユーロでも堅調。ブレア政権下で「英国病」を克服し、世界的デフレが進む中も影響は限定的だった。かつての大英帝国は資本主義が成熟しており、輸出よりも、住宅市場など資産価値の動向に注目が集まる傾向が強い。

テクニカル・レート

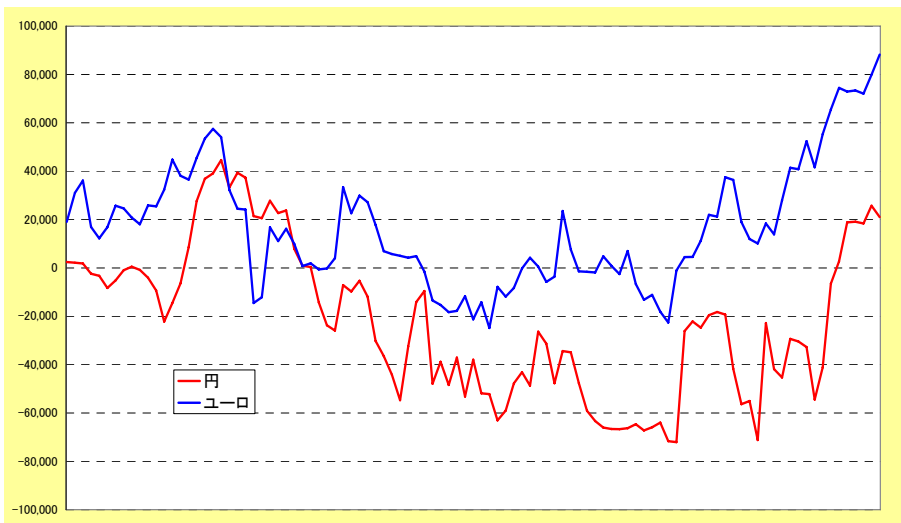
+2σ = 210.83円
 24ヶ月動平均線 = 201.54円
 -2σ = 192.25円

先月高値 = 211.44円
 先月安値 = 205.38円
 先月終値 = 210.46円
 直近の値 = 209.75円

今週の投資例

トレンド＝上昇
 現在値＝209.75円
 引き続き堅調が予想されるが、英景気は米景気を先行することが多い。米経済に不透明感がある中、注意も必要。

ユーロ買い持ちの調整幅に注目、15日の福井総裁発言には注目

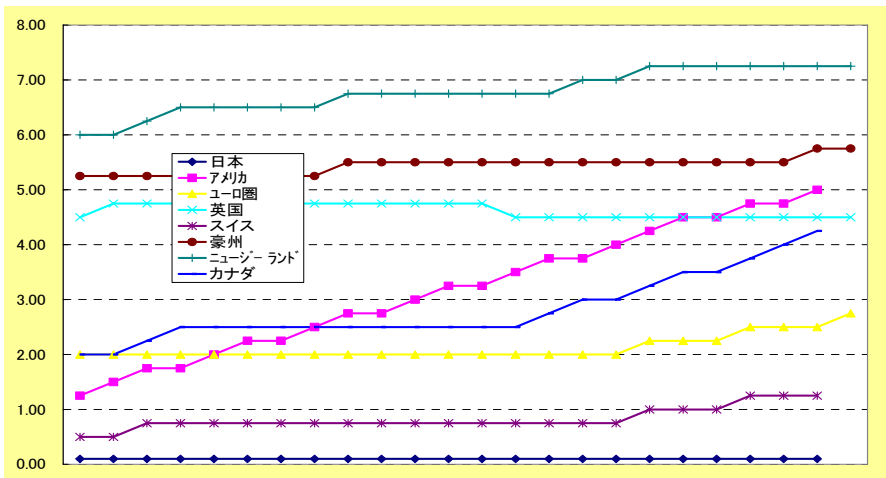


IMM投機筋ポジション動向

6月6日までの状況では、シカゴIMM投資筋の円の買い持ちは約2.1万枚。先週より約0.4万枚縮小した。6日の終値は113.13円。直近6月9日の終値は113.96円。さらに縮小か。

一方、ユーロの買い越しは先週より約0.9万枚拡大し、約8.8万枚。6日が1.2826ドル。9日が1.2638ドル。縮小が予想される。

ユーロの買い持ちは依然、過去最高水準にある。ただ先週、ユーロは急落。ポジション調整となれば、大きな調整となる可能性もある。その場合、ドル円にも影響をし、ドル円の下値リスクは低くなりそうだ。



各国金利動向

先週は欧州、オセアニア諸国で政策金利の発表があった。特に、ECB政策金利をめぐっては、+25bp利上げされたものの、+50bpが予想されてこともあり、発表後ユーロは急落。同じ欧州通貨である英ポンドもつられて下落した。オセアニア通貨は予想とおりの据え置きとなり、全般底堅い推移となった。

今週は15日に、スイスで利上げが予想されているSNB政策金利が発表される。また、14,15日には日本で金融政策決定会合が開催され、15日には福井日銀総裁の会見も。株安が続く中、利上げは予想されにくいものの、注目される。